『東京大学言語学論集』**35** (2014.9) 325-339

中国語の起点標識“从”の意味拡張

—起点標識が中間経路[1]を表す場合を中心に—

鄭若曦
madelinecici@gmail.com

キーワード：起点　中間経路　移動　意味拡張

要旨

中国語の起点標識“从”は、起点用法を主とする一方、移動の中間経路を表す用法をも併せ持つ。本論文では、“从”の持つ様々な中間経路用法と起点用法の意味関係に注目し、先行研究のように全ての“从”の中間経路用法と起点用法に意味的共通性を見出すことは難しいと指摘し、互いに部分的な共通性を持って緩やかに関連しあう関係にあることを論じた。更に、“从”が持つ手段用法の拡張原理についても考察した。

1.　はじめに

移動表現は、通言語的に最も基本的な言語表現の一つである。中でも「起点」は、移動事象を構成する基本的な概念の一つであり、起点を表す形式はどの言語も持つと言えよう。中国語の前置詞“从（cóng）”も、移動表現に用いられる際には、主として（1）のように移動の起点を表す「起点標識」として知られている。

(1)　从　北京　去　东京。
FROM 北京　行く　東京
北京から東京に行く。

一方、“从”によってマークされる場所には、(2)（3）（4）のように、実際の移動の起点としては考えにくく、移動の中間経路としてしか解釈できないものが少なからずある。

(2)　小偷儿 从　窗户　进　了　屋子。
泥棒　FROM 窓　入る PERF 部屋
泥棒は窓から部屋に入った。

(3)　请　从　救生梯　下去。
どうぞ　FROM　非常階段　降りる-行く

[1] 本研究で言う「中間経路」は、移動経路の起点と着点を除いた部分（route）のことを指す（Jackendoff1983を参照）。なお、論者によっては「経由点」「経由地」「経過点」「通過点」などと呼ぶこともある。

非常階段から降りてください。

(4)　飞机　从　空中　飞过去[2]　了。
飛行機　FROM 空の中　飛ぶ-GUO[3]-行く PERF
飛行機は空を飛んでいった。

このように、中国語の“从”は起点用法を主とする一方、中間経路を表す用法をも併せ持つと言えよう。本論文では、“从”のこのような中間経路用法がこれまでどのように論じられてきたかを検討した上で、全ての“从”の中間経路用法と起点用法に意味的共通性を見出すことは難しいと指摘し、互いに部分的な共通性を持って緩やかに関連しあう関係にあると主張する。また、先行研究を検討する際、一見日本語の「過ぎる」「越える」と似たような意味を表す中国語の移動動詞“过（guò）”の意味構造や、中間経路が“从+トコロ+过”と“过+トコロ”[4]で表される場合の役割分担についても適宜触れていく。

2.　これまでの“从”の意味分析：中間経路用法を中心に

中国語の前置詞“从”の意味に関しては、代表的な辞書である『現代漢語詞典』『現代漢語八百詞（呂淑湘 1980）』を引いてみると、どれも主として以下の三つの項目が挙げられている。（以下、呂 1980 の例文と用語で記す）

A 起点を表す
　A1 場所・来源を表す
　　① 从这儿往南走　　（ここから南へ行く）
　　② 知识从实践中来。　　（知識は実践の中から来る）
　A2 時間を表す
　　③ 从早到晚　　（朝から晩まで）
　A3 範囲を表す
　　④ 从大人到小孩　　（大人から子供まで）
　A4 発展・変化を表す
　　⑤ 从小孩变成大人　　（子供から大人に変わる）
B 経由した道筋・場所を表す
　　⑥ 从隧道穿过　　（トンネルを抜ける）

[2] 中国語では移動事象を表す際に、複合動詞を頻繁に用いる。(4)のように動詞が三つ重なる（“V1-V2-V3”）場合、日本語の「てくる」「ていく」にあたる部分は必ず V3 に、「上がる」「入る」のように経路融合型の動詞は V2 に、「歩く」「飛ぶ」のような様態融合型の動詞は V1 の位置にくる。これらの動詞のどれを複合動詞の主要部とみるかは意見の分かれるところであるが（趙 1979、瀋 2003、Tai2003、Slobin2004）、伝統的な中国語学では V1 の方を主要部とし、V2-V3 を方向補語として扱っている。
[3] 移動動詞“过”の意味については、常に何かを「過ぎる」または「越える」ことを表すとする先行研究（杉村 1992,2000）もあるが、筆者は違う意見を持つためここでは“过”の意味を一先ず GUO で記す。
[4] 本研究で言う“从+トコロ+过”と“过+トコロ”は、述語動詞が“过”単独の場合だけでなく、“V1-过”“过-V3”“V1-过-V3”のように“过”が複合動詞の一部となっている場合も含む。

C 根拠・依拠

⑦ 从脚步声就知道是你　　（足音からあなただと分かる）

呂 1980 の言う A の「起点」は、広義の起点だと理解してよいと思われる。位置変化の開始点（＝狭義の起点）と、時間や範囲の開始点、状態変化の初期状態との間に、呂 1980 は意味的に大きな共通性を認めていることが分かる。一方、B の「経由した道筋・場所」（＝中間経路用法）は、A の起点用法とは別の項目として立て、両者の間に意味的にどのような繋がりがあるかについては述べられていない。

“从”の中間経路用法と、他の用法との繋がりについて積極的に論じている先行研究として森 1998、木村 1996、平井・成戸 1996 がある。

森 1998 は、中間経路を表す場合に“从”が使われる理由として、「『起点』のイメージを基にして、こちらの世界とあちらの世界を隔てる境界線を越える行為に注目すれば、そこに『経過点』が生まれる…『経過点』はこちらの世界とあちらの世界の分岐点であるが、同時にまたそれは、あちらの世界の「起点」にもなりうる。“从”が『起点』と『経過点』を共に表しうる所以である」と述べ、以下の図 1 で説明している。

図 1

森 1998 の説明は、(2) のように、瞬間的に通過できるような中間経路が起点に読み替えられる理由をうまく説明できていると言えよう。一方、(3)（4）のように、中間経路が一定の（または無限の）拡がりをもち、述語に移動動詞“过”が使われている場合も（2）と同じ論理で起点に読み替えられると説明したところには、かなり大きな無理があると言わざるを得ない。森 1998 より少し前の木村 1996 では、(4) のような無限な拡がりをもつ中間経路については触れていないが、(3) のような一定の拡がりをもつ中間経路については森 1998 と同じ論理で説明しているため、同じ意味で無理を含んでいると考える。3 節で詳しく述べる。

一方、平井・成戸 1996 は、日本語の「から」と中国語の“从”の中間経路用法を比較対照し、「から」が中間経路を表せる理由については森 1998 と似た論理で説明している[5]が、中国語の“从”の (3)（4）のような中間経路用法に関しては、異なる領域間の境界線としては読み取りにくいとし、別の説明を与えている。「『从トコロ』…においては、話者の視界はトコロに限定されており、主体がトコロに至る以前の過程は表現から捨象されている。

[5] 日本語の「から」の中間経路用法に関して、実際には森田 1988 に基づいて説明しているが、森 1998 の“从”に関する説明とほとんど変わらない。

従って、“从”により示される経過点は、客観的事実としては移動の途中に存在するものだが、…移動の起点との区別がつきにくくなっている」と述べている。この説明ではまるで「話者が注目したところが起点だ」と言っているようなもので、かなり薄い共通性のように思われる。“从”の起点用法から中間経路用法の様々な用例への意味拡張の動機が、このような薄い共通性に基づいているとは考えにくい。4節で検討していきたい。

一方、森1998が“从”の語用論的用法として「手段」という項目を立てた点は注目に価する。即ち、従来“从”の中間経路用法として挙げられた用例の中には、冒頭の（3）や以下の（5）のように、「いろいろな選択肢からなる範囲の中から、適当なものを一つ引っ張りだす」という意味合い[6]が強化されたものがあり、「中間経路」というよりは移動の「手段」を表しているのではないか、という考えである。このような「手段」として解釈できる“从”と、(1) のような典型的な起点用法の“从”や、(2) (3) (4) のような中間経路用法の“从”との関係をどのように考えるべきか。4節で検討していきたい。

(5) 从　小路　回　家　吧。
FROM 小道 帰る 家　う・よう（勧誘）
小道から家に帰ろう。

3.　異領域間移動による説明の問題点

2節の説明から分かるように、森1998は中国語の“从”が中間経路を表せる理由を、異なる領域間を移動する際に、両領域の境界線は移動の中間経路であると同時にもう一方の領域の起点でもある、というところに求めている。しかし、この説明では、(2) の窓や (6) のドアのように瞬間的に通過できる中間経路の場合はうまく説明できるものの、(3) の非常階段や（7）の橋のように一定の拡がりを持つものや、(4) の空や（8）の通りのような無限な拡がりを持つもので、且つ移動動詞に“过”が使われた“从”の用例を説明するにはかなり無理があると考える。

(6) 他 从　　后门　进来　　了。
彼 FROM　裏口　入る-来る　PERF
彼は裏口から入ってきた。
(7) 汽车 从　　石桥上　　开过去　　了。
車　FROM 石橋の上　運転する-GUO-行く　PERF
車は石橋の上を走っていった。
(8) 卡车　　从　　大街上　　驶过去　　了。
トラック　FROM 大通りの上　走る-GUO-行く PERF

[6] 原1998も“从”が中間経路を表す際の一部の表現に言及した際に、「角度性（背後に他の角度を包含しつつ、それらを排して特定の角度を指定する）」という概念を用いて説明しており、発想の面では森1998と重なる面があると言える。

トラックは大通りの上を走っていった。

例えば、「橋」や「トンネル」のような一定の拡がりをもった場所に関して、森 1998 は「それ自体一定の距離を持つが、主体や対象が移動していくプロセス上のひとつの通過ポイントとみなせば、（窓やドアと）同じ解釈が可能だ」と指摘する。木村 1996 も、(7) のような橋の例に関しては、「日本語の感覚では、「バスが通りすぎて行っ」た「橋」は＜通過点＞であり、＜通過点＞には「から」を用いず、「を」を用いる。一方中国語では、河のこちら側にいたバスが「橋」を＜起点＞にしてむこう側に移った、という認識で捉えられ、＜通過点＞も＜起点＞の一種と見なされる」と述べていることから、森 1998 とはほぼ同じ論理で説明していると言えよう。確かに、橋やトンネルは、二つの領域を繋ぐための構築物という性格が強く、その意味でそれ自身が持つ距離を捨象して、単にひとつの通過ポイントとして見ることができるかもしれない。

しかし、実際に移動動詞“过”が使われた (7) がどのような状況に使われているのだろうか。実際、母語話者 42 名に、以下の図を見せ、橋の左下で見ているという設定で話し手が (7) を発話する際に、車が ABCD のどの位置にいることが可能かを複数選択で聞いてみたところ、【A: B: C: D=11: 17: 30: 35】という結果が得られた。即ち、橋を渡り終えた D 地点を選ぶ人も多かったが、そうでない ABC を選ぶ人も決して少なくないことが分かった。

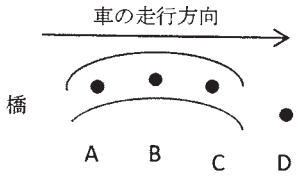

図 2

(7) において C と D の選択が多かったのは、車が話し手から離れていく移動であることがある程度関係していると考える。そこで、話し手が図 2 の橋の右下で見ていて、(9) のように話し手に近づいてくる移動を表す場合を母語話者に確認してみたところ、【A: B: C: D=30: 31: 31: 18】という結果が得られた。ABC を選んだ人が 8 割近くいるが、D を選んだ人は半分以下であることがわかった。よって、(9) のような“从+トコロ+过”においては、車はむしろ発話時にまだ橋の上にいるのが一般的であり、その場合橋全体は決して一つの通過ポイントとして捉えられないことが言える。

(9) 汽车 从　　石桥上　开过来　　了。
　　車　FROM 石橋の上　運転する-GUO-来る　PERF
　　車は石橋の上を走ってきた。

一方、中国語では中間経路を表すのに、(10) の“过+トコロ”のように、橋が動詞の直接目的語になることも可能なため、（話し手の位置は自由という設定で）図 2 を用いて同じ

質問をしてみたところ、【A: B: C: D=0: 1: 11: 41】という結果が出た。ほぼ全ての人が橋を渡り終えたD地点を選んでいるが、他の地点を選ぶ人は少なく、特に橋の前半・中央部分にあたるAB地点を選んだ人はほとんどいないということがわかった。

(10) 汽车 开过　　了　　石桥。
車　運転する-GUO　PERF　石橋
車は石橋を渡った。

以上のことから、橋の全域を通過することを積極的に表しているのは、むしろ（10）の“过+トコロ”の方であり、(7）や（9）の“从+トコロ+过”はあまり橋全体を渡り終えたか否かを重視しておらず、車が橋の一部を通っただけでも問題なく表せる。その場合、「橋」全体を一つの通過ポイントと見なすのは明らかに無理があると言えよう。

上記の「橋」を含む用例に関する疑問は、(8）の「大通り」や（4）の「空」など、無限な拡がりを持った中間経路にも生じる。森1998は、（(4）の「空」の場合、）「何も空全体を問題にしているのではない。主体自身が上空に主体の視界によって臨時的に範囲の境界線を引き、対象が視界の外からやって来て、視界を通過して、また視界のかなたへ行った、ということである」と説明している。森1998の説明では、あたかも移動物が話し手の視界に入ってから視界を出るまでの全過程を描いているようだが、実際“从+トコロ+过”は飛行機が目の前の空のほんの一部分を飛んでいったときにも問題なく使える。その場合、移動物は話し手の視界の中にあり、視界から出ることがないため、話者の視界を臨時的な境界線として考えることに無理が生じると言えよう。

上記のことは、島村2003の言うように、中国語で中間経路を表す際に、“过+トコロ”と“从+トコロ+过”には役割分担があり、前者は移動の全過程を捉え、中間経路の全域を通過し、動作の完結性に重きをおくのに対して、後者は全域を通過したかどうかがはっきりとせず、動作の完結性よりも、トコロそのものを強調する、という指摘と関係がありそうである。両者の区別は、それらがそれぞれどのような時間表現を付けられるか、複数の場所を経由するときにも使えるか、などからも伺える。（(11）から（14）は島村2003を引用）

(11) ??你　能　用　三十分钟的时间 <u>从　这条河</u> 游过去　吗?
あなた できる 使う 30分の時間　FROM この川 泳ぐ-GUO-行く か（疑問）
30分でこの川を泳いでいけますか？

(12) 你　能　用　三十分钟的时间 游过　这条河　吗?
あなた できる 使う 30分の時間　泳ぐ-GUO この川　か（疑問）
30分でこの川を泳いで渡れますか？

(13) *<u>从　客厅　和 花园</u>　走过
FROM　リビング と　庭　歩く-GUO

リビングと庭を歩く。

(14) 走过　　客厅　　和 花园
歩く-GUO　リビング　と 庭
リビングと庭を歩いて渡る。

(15) *从　一条 街　走过　　／ 从　街上　走过
FROM 一つ 通り 歩く-GUO　　FROM 通りの上 歩く-GUO
通りを歩く。

(16) 走过　　一条 街　　／ *走过　　街上
歩く-GUO 一つ 通り　　歩く-GUO　通りの上
通りを歩いて渡る。

(11) から分かるように、“从+トコロ+过”は“用三十分钟的时间（30 分で）”という移動の完了を表す時間表現を付加すると、途端に自然度が落ちる。“从+トコロ+过”は、トコロ全域の通過を前面に押し出す表現とは相性が悪いことが分かる。また、(14) に比べて、(13) が不自然なのも、完結した移動であれば中間経路は複数あってもよい“过+トコロ”に対して、“从+トコロ+过”はトコロ全域の通過を前面に押し出さない表現であるため、複数の中間経路の通過を一気に表せないと説明できる。

この点に関しては、実は中間経路が 1 つだけの場合でも、トコロに不定の数量表現（数詞“一”＋量詞、以下“一＋量詞”と記す）を付加できるか否かで違いが見られると指摘したい。(16) の“过+トコロ”は問題なく“一＋量詞”が付けられるのに対して、(15) の“从+トコロ+过”にはそれが付けられず、多くの場合（特にトコロが一定の拡がりを持つ場合)、いわゆるトコロ化機能を持つ方位詞“里”“上”を強制的に付けなければならない。(16) は“里”“上”を付けられないのが対照的である。“一＋量詞”は、従来名詞を個体化する機能を持つ（大河内 1985）と言われてきたように、名詞にそれが付加されるとそこに一種の有界性が加えられ、動作にも完結性が要求されることになるため、“从+トコロ+过”とは相性が悪くなったのだと考えられる。一方、方位詞は名詞をトコロ化させる機能を持つ（荒川 1992）と言われてきたように、それによって名詞に一種の無界性を加えると考えるならば、トコロ全域の通過や動作の完結を強く要求する“过+トコロ”との相性の悪さも理解できよう。

以上のことから、“从+トコロ+过”は（発話時に既に移動物がトコロを通過している＜＝図２のＤ地点にいる＞ことも表せなくはないが)、表現の重きはトコロの通過に置いていないと言える。よって、「橋」「大通り」などの中間経路が“从+トコロ+过”によって表される場合は、それらを一つの通過ポイントとみなし、両領域をつなぐ境界線として説明しようとする森 1998 の考え方には疑問を感じざるを得ない。

以上、森 1998 が異領域間の境界線という観点から“从”の中間経路用法を説明する問題点を、主に中国語で“过+トコロ”に対する“从+トコロ+过”の役割分担との矛盾から指摘

してきた。森 1998 がそのように考えたことには、杉村 1992・杉村 2000 をはじめとして“从”の中間経路用法に頻繁に現れる移動動詞“过”に対する意味分析が深く関係していると思われる。

移動動詞“过”の意味に関しては、代表的な辞書・字書（『現代漢語詞典』『現代漢語八百詞』『新華字典』『動詞用法詞典』）を調べると、どれも主な意味項目として、「ある地点を通過する」という意味と、「ある地点から別の地点へ移動する」という意味が記載されている。前者は主に何を通過したのかが容易に取り出せる（17）のような場合を言うが、後者に関しては、（18）のように何を通過したのかが取り出しにくい場合を指す。

（17）月光 穿过　　窗户，斜　　照　　在 郑波　　的 床头。
　　月光 射し込む-GUO 窓　　斜めに 照らす に 鄭波さん の ベッド
　　月光は窓から射し込み、鄭波さんのベッドを斜めに照らした。
（18）一个 篮球　　<u>从　　球场上</u> 飞了过来。
　　一つ バスケットボール FROM 球場　　飛ぶ- PERF -GUO-来る
　　バスケットボールが球場を飛んできた。

杉村 2000 では、後者に使われる“过”の意味も、実は前者と同じスキーマで考えることができると指摘し、（18）のような例は物理的には通過点を取り出しにくいが、「通過点 Y が心理的実在として XZ 二地点間に存在すると考える」「“过”は物理的に均質な空間を主観的に二つの異質な空間「むこう」と「こちら」に仕分けする」「“过”のあらわす様々な意味を考える時、境界 Y の存在は決定的に重要である」という風に述べている。

筆者は、“过”が必ず何かを過ぎていなければならない、という杉村 1992・杉村 2000 の前提となる考えに疑問を感じる。これまで挙げられた例文を見ても分かるように、中国語で“过”が使われる場合、日本語の訳には「過ぎる」「渡る」などの動詞が現れてこない場合があまりにも多い。本当に中国語の話者がその都度見えない心理的な境界線を設定しているのかという疑問が湧く。勿論、それもひとつの説明としてありうるが、“过”の本義はあくまでも「二つの地点間の移動」であり、「ある地点を通過する」という意味は当該地点を表す名詞句が移動動詞の直接目的語に立つことによって生まれる意味だと考えることはできないだろうか。

前述したように、中国語の“过+トコロ”は動作の完結性に重きをおく表現である。もしその考えが正しければ、それ自体「二つの地点間の移動」しか表さない“过”が直接目的語を取ると、移動動作に完結性が強制的に求められることになる。その結果、当該直接目的語が指示するトコロを端から端まで通過するという意味が生まれたのではないかと考えられる。このように“过”の意味を捉えることにより、“从”の中間経路用法に常に異領域間の境界線たるものを求める必要性がなくなり、もっと柔軟に“从”の用法間の関係を考えることができると思われる。

4. “从”の中間経路用法への意味拡張の仕組み

3節から分かるように、一口に“从”の中間経路用法と言っても様々であり、森1998のようにそれら全てに起点用法の“从”との強い共通性を見出すには相当無理があると言えよう。一方、平井・成戸1996が提示したような薄い共通性では、“从”の起点用法から中間経路用法への本当の意味拡張の動機を捉え損ねている可能性があると考える。

そこで4節では、“从”の中間経路用法を、起点用法と関係が緊密なものから、遠いものまで、互いにどのような部分的共通性を持ちながら広がっていき、意味的なネットワークを構成しているのかを検討していきたい。

4.1 “从”の典型的な起点用法

“从”の最も典型的な起点用法を一例挙げるよう言われたら、(1) のような例を挙げる人が多いだろう。典型的な起点は、「移動の実際の出どころ」である。一方、典型的な起点に関する認識は、背景となる移動事象全体に関する百科事典的知識からの影響も大きいと言えよう。典型的な起点は、(1) のように着点への到達が明白な移動事象、または (19) のように着点への到達が強く含意される移動事象を背景とする。(20) のように着点を含意しない移動動詞を取る場合、“从”のマークする場所は起点として認識されない可能性も十分に有りうる。背景となる移動事象が着点への到達を含意するか否かは、“从”によってマークされた場所の起点らしさと相関すると言えよう。

(1) 从　北京　去　东京。
FROM 北京　行く　東京
北京から東京に行く。

(19) 我 刚　从　北京　回来。
私 さっき FROM　北京　帰る－来る
北京から返ってきたばかりだ。

(20) 从　小路 走　吧。
FROM 小道 歩く う・よう（勧誘）
小道から行こう。

また、次の一連の用例から、“从”によってマークされた典型的な起点は、移動主体が着点への到達を意図した移動事象を背景にしていると言えそうである。三宅1996は、日本語の起点表現における「から」と「を」の使い分けに関して、移動の意図性が大きく関与していると指摘している。中国語の起点表現も“V+トコロ”と“从+トコロ+V”の二通りがあるが、(21) と (22) から分かるように、両者の使い分けに移動の意図性はあまり関係していない。一方、(21) と (23)、(22) と (24) を比較すれば分かるように、非意図的な移動の場合、“从+トコロ+V”の述語の方には、必ず様態融合型の移動動詞を付ける必要がある、という制約がかかっているのである。よって、移動主体が着点への到達を意図した移

動の方が、より典型的な起点を特徴付けるのにふさわしいと言えよう。

(21) 他 从　教室 走出来了。　／ 他 走出了　教室。
彼 FROM 教室 歩く-出る-来る-PERF　彼 歩く-出る-PERF 教室
彼は教室から歩いて出た。

(22) 球　从　教室 滚出来了。　／ 球　滚出了　教室。
ボール FROM 教室 転がる-出る-来る-PERF　ボール 転がる-出る-PERF 教室
ボールが教室から転がり出た。

(23) 他 从　教室 出来了。
彼 FROM 教室 出る-来る-PERF
彼は教室から出てきた。

(24) * 球　从　教室 出来了。
ボール FROM 教室 出る-来る-PERF
ボールが教室から出てきた。

以上のことから、“从”によってマークされた典型的な起点を、「着点への到達を意図し、着点への到達が明白な（または強く含意する）移動事象において、その移動の実際の出どころを表す」という風に特徴づけたい。即ち、「移動の実際の出どころ」ということと、「着点への到達が明白である（強く含意される）」ことと、「着点への到達を意図する」という3点を満たした場合に、典型的な起点として意識されやすいと言えよう。以下、“从”の様々な中間経路用法が、この3点とどう関連しているかを考察していきたい。

4.2　「移動の実際の出どころ」からの拡張

(1) の「北京」は、移動の実際の出どころの場合であった。そのような用例を念頭におきながら、以下の用例を見ていただきたい。

(25) 我 从　韩国 转机　去　东京。
私 FROM 韓国 乗り継ぎ 行く 東京
私は韓国経由で東京に行きます。

(26) 我 今天 从　御茶水车站 去　学校。
私 今日 FROM 御茶ノ水駅 行く 学校
今日は御茶ノ水駅から学校に行きます。

“从”によってマークされた「韓国」も「御茶ノ水駅」も、移動の実際の出どころではなく、単なる移動の中間経路だと言えよう。しかし、どの用例も (1) との親和性を感じさせるのはなぜか。それは、(25) と (26) の移動が「乗り継ぎ」－即ち、そこで移動が一旦止まって再開する－という特徴をもっているからではないか。実際の起点は、北京または自宅であるかもしれないが、韓国または御茶ノ水駅まで移動すると一旦ポーズをとり、そ

こから再び出発して、北京や学校に向かって移動をスタートさせるわけである。一旦中断して再スタートするという点に注目すれば、「韓国」と「御茶ノ水駅」を改めて移動の出どころとして認識する余地が生まれるだろう。

次の（2）（27）は、“从”によってマークされた場所において移動を一旦中断して再スタートするという感じはあまりしないが、そこを経由して「一方の領域から出て、他方の領域に入る」ことを表しているため、森 1998 の言うように、二つの領域を隔てる境界線としての役割を果たしている。そこで、入られた方の領域に注目すれば、“从”によってマークされた場所をその領域にとっての移動の出どころだと認識する余地が生まれるだろう。

（2）小偷儿 从　窗户 进　了　屋子。
泥棒　FROM 窓　入る PERF 部屋
泥棒は窓から部屋に入った。

（27）他 从　后门 出　了　教室。
彼 FROM　裏口　出る PERF　教室
彼は裏口から教室を出た。

4.3　「着点への到達が明白である（強く含意される）」との関係

ここまでは、客観的には移動の中間経路でしかないが、何らかの動機によって移動の出どころとしても認識する余地のある“从”の中間経路用法であった。一方、客観的には移動の中間経路であり、移動の着点への到達が明示されていることから、これらの“从”によってマークされた場所は「そこを通って着点へ到達する」という意味特徴をも共有していると言える。

さて、以下の（28）（29）（30）は、（25）（26）のような「乗り継ぎ」的な移動ではなく、またそれ自身一定の拡がりを持つため、（2）（27）のように異領域を繋ぐ境界線としても読み取りにくい。よって、「移動の出どころ」として読み取ることができず、典型的な起点の意味特徴がここでは 1 つ欠けていると言えよう。一方、“从”によってマークされた場所は点的なものから一定の拡がりを持ったものになったが、「そこを通って着点に到達する」という点においては、上記の他の中間経路用法と大きく共通している。

（28）他 从　本乡路　走到了　学校。
彼 FROM 本郷通り 歩く-到達する-PERF　学校
今日は本郷通りから学校に行きました。

（29）他 从　人行横道 走到了　马路 对面。
彼 FROM 横断歩道 歩く-到達する-PERF　通り 向こう
彼は横断歩道から通りの向こうに行きました。

（30）我 从　梯子　爬上了　房顶。
私 FROM はしご 這う-登る-PERF　屋根

はしごから屋根に登りました。

上記の“到（到達する）”“上（登る）”“来（来る）”“去（行く）”などの移動動詞は、必ず着点が、且つそのままで直接目的語の位置に来ることからも分かるように、着点への「到達」を強く含意する移動動詞である。一方、述語動詞“下（降りる）”は、着点がそのまま直接目的語になれる用例は限られており、着点を付けたい場合は、(31) のように移動動詞“到（到達する）”を更に付加することが多い。特に必要なければ、(32) のように、着点を表示しないままで表すことが多く、着点への到達もある程度含意されるものの、それよりも“从”によってマークされた場所を通ることにより重きを置いているといえよう。

(31) 他 从　　楼梯上　下到了　　地下。
彼 FROM 階段の上　降りる-到達する-PERF　地下
彼は階段から地下に降りた。

(32) 他 从　　楼梯上　下来了。
彼 FROM 階段の上　降りる-来る-PERF
彼は階段から降りてきた。

更に、移動動詞“过”を取る場合はどうだろうか。“过”の場合、“到（到達する）”を更に付加しても着点を表せないことが圧倒的に多いと言える[7]。また、3 節でも述べたように、(9) のような“从+トコロ+过”は、移動物がトコロの一部を通る場合にも問題なく使え、トコロ全域を通過したかどうか、更にそこからどこを目指して移動しているかは関心の的の外である。ここまで来ると、着点への到達という含意は全くなくなり、ただ“从”によってマークされた場所を通る、という意味だけが残ったと言えよう。

(9)　汽车 从　　石桥上　开过来　　了。
車　FROM 石橋の上　運転する-GUO -来る　PERF
車は石橋の上を走ってきた。

以上、「移動の実際の出どころであり、着点への到達が明示（強く含意）される」という典型的な起点から、どのように中間経路用法に徐々に拡張してきたのかを見てきた。(9) までくると、既に典型的な (1) のような起点用法とは共通性を失って、全くの別用法になったと言えよう。

4.4　「着点への到達を意図する」からの拡張

4.3 節では、移動動詞が“过”以外の場合、程度の差こそあれ、着点への到達を含意すると論じたが、移動主体に関しては、無情物でないかぎり、圧倒的に多くの場合、着点へ到

[7] コーパス CCL で“从トコロ过”で拾った用例 500 例のうち、“从トコロ过＋到＋着点”のようになっている用例はたったの 6 例であった。

達するためにそこを出発する（または通る）－即ち、着点への到達という目標を目指してそこを出発する（または通る）－という特徴を持つと言える。

着点へ到達するための道筋は一つだけでないことが多く、それは言い換えれば、目標達成のための手段が一つだけでないということに等しい。ここに、移動の起点や中間経路から、「手段」（または「選択肢」）の意味へ拡張する動機があると考える。森 1998 が言うように、「手段」としての“从”が、しばしば「いろいろな選択肢からなる範囲の中から、適当なものを一つ引っ張りだす」という意味合いを強く感じさせるのは、正にこのような動機が背景にあるからだと言えよう。

ただ、他にも色々選択肢があるか否かは、文脈によって決まることが多く、ここまで挙げた多くの用例は、文脈が整い次第、「手段」（または「選択肢」）としての読みが可能になる。例えば、(3) の場合、既に非常階段に立っている聞き手に向かってそこを降りてくださいと言う読みもあれば、地震で避難通路を探している聞き手に向かって他ではなく非常階段を使って降りてくださいという読みも可能である。

(3) 请　<u>从　救生梯</u>　下去。
どうぞ　FROM　非常階段　降りる-行く
非常階段から降りてください。

また、「手段用法」の場合、起点用法と中間経路用法が必ず経路融合型の動詞を用いているのと違って、(20) のように、述語動詞は様態融合型の動詞だけでもよい。この点は森 1998 の指摘であるが、森 1998 ではむしろ (20) のような用例のみを手段用法として扱っている。本研究では、(3) のような中間経路用法としての読みが可能な“从”にも、手段用法を認めてよいと考える。

(20) <u>从　小路</u>　走　吧。
FROM 小道 歩く う・よう（勧誘）
小道で行こう。

5. まとめと今後の課題

本論文では、中国語の起点標識“从”が持つ様々な中間経路用法に注目し、それらが“从”の起点用法とどのような関係にあるかに焦点を当てて分析を行った。森 1998 をはじめ、先行研究において全ての中間経路用法と起点用法との間に意味的な共通性を見出そうとすることの問題点を指摘した上で、これらの中間経路用法が、典型的な起点用法からどのように部分的な共通性を持ちつつ拡張していったかを様々な用例を提示して論じてきた。また、“从”の手段用法の拡張の原理についても改めて説明を与えた。

今後の課題としては、まず、“从”の中間経路用法に現れる様々な移動動詞の意味分析を行うことが挙げられよう。本研究では主に移動動詞“过”について検討したが、他の移動

動詞に関しても必要だと考える。また、本研究では“过+トコロ”と“从+トコロ+过”の違いについて述べたが、具体的に“从+トコロ+过”がどのような機能を持つかについては改めて検討する必要がある。更に、本研究では中国語の“从”のみを研究対象としてきたが、今後は日本語の起点や中間経路を表す「から格」や「を格」との対照研究にも力を入れたいと考える。

参考文献

荒川清秀 (1992)「日本語名詞のトコロ（空間）性—中国語との関連で—」『日本語と中国語の対照研究論文集（上)』くろしお出版.

原由紀子 (1998)「“从”—来源を表すものとして」姫路独協大学『外国語学部紀要』11: 257-273.

平井勝利・成戸浩嗣 (1996)「移動動作の場所を示す“从”と補語を受ける“ヲ”の日中対照」名古屋大学言語文学部『言語文化論集』17(12): 370-372.

Jackendoff, Ray (1983) *Semantics and Cognition*. Cambridge, Mass.: MIT Press.

木村英樹 (1996)『中国語はじめの一歩』ちくま新書.

吕淑湘 (1980)『现代汉语八百词』北京：商务印书馆

森田良行 (1988)『日本語の類意表現』: 254-256. 創拓社.

森宏子 (1998)「“从”の空間認識」『中国語学』245: 122-131.

三宅知宏 (1996)「日本語の移動動詞の対格標示について」『言語研究』110: 143-168.

大河内康憲法 (1985)「量詞の個体化機能」『中国語学』232: 1-13.

島村典子 (2003)「動詞の前後に位置する起点と経過点 」『中国語学』250: 122—136.

Slobin, Dan. I. (2004) Many ways to search for a frog: Linguistic typology and the expression of motion events. In S.Strömqvist & L.Verhoeven (eds.) *Relating Events in narrative: Typological and Contextual Perspectives*: 219-257. Mahwah, NJ: Lawrence Erlbaum Associates.

杉村博文 (1992)「現代中国語における「むこう」と「こちら」の諸相」大河内康憲（編)『日本語と中国語の対照研究論文集（上)』: 153—180. 東京：くろしお出版.

杉村博文 (2000)「方向補語“过”の意味について」『中国語』1: 58—60.

沈家煊 (2003)「现代汉语“动补结构”的类型学考察」『世界汉语教学』3: 17-23.

Tai, J. (2003) Cognitive relativism: Resultative construction in Chinese. *Language &Linguistics* 4(2) : 301-316.

赵元任 (1979)『汉语口语语法』吕叔湘訳. 商务印书馆

Semantic Extension of “the Source Marker” in Chinese: With Special Reference to Cases where the Source Marker Designates the Route

Ruoxi Zheng
madelinecici@gmail.com

Keywords: source, route, motion event, semantic extension

Abstract

The Chinese preposition “*从(cong)*”, whose primary function is to mark the source of a motion event, can also often be used to designate a “route”. This paper is intended to elucidate the semantic relationship between the “source” use and the “route” use of “*从(cong)*”. While all previous studies have tackled this problem by trying to identify what the two uses have in common, I argue that they should be viewed as forming a family resemblance category with certain other uses related to either or both of them in one way or another. A possible mechanism of semantic extension giving rise to the “means” use of “*从(cong)*” is also proposed.

（てい・じゃくぎ　東京大学大学院）